



## 青江 整一さん

株式会社ミナモト建築工房  
代表取締役



# プロフィール

氏名：青江 整一(あおえ せいいち)

■所属：株式会社ミナモト建築工房 代表取締役

■経歴：

岡山県立岡山城東高校卒業

同志社大学経済学部卒業

株式会社乃村工藝社に就職

上記退社後、世界一周を経て現職

(その他)

くらしのたね世話人

操車場跡地にできる新公園を活用する市民の会代表



岡山操車場跡地(岡山市北区北長瀬)にできる新しい公園をもっと市民が活用できる場にしたいという思いから2017年8月に「新公園を活用する市民の会(以下、市民の会)」が発足しました。

市民、行政、企業など様々な主体が協働しながら公園の企画や管理を担う「パークマネジメント」を普及・実践するため、誰でも参加できるイベント「きたながせスूप」の開催をはじめ、子どもの遊び場づくり、農園づくりなどを試行しています。

青江さんはボランティアグループ「くらしのたね」の世話人として岡山市とともに新公園でのパークマネジメント導入に携わり、市民の会設立後は代表として、新公園の価値を高めるべく精力的に活動されています。

# 価値観

1. やっっちゃえばいい
2. 豊かであること(豊かさの追求)
3. 地域と人をつなぐ



# 価値観を表すエピソード

## 1. やっちゃえばいい

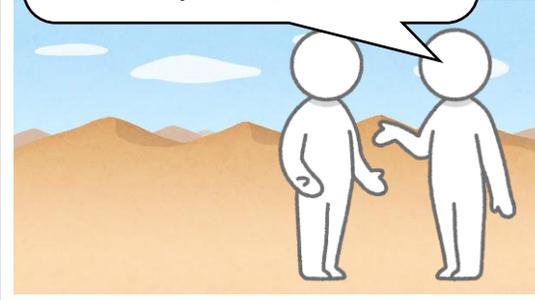
青江さんは20代後半の頃、学生時代からの夢であった「世界一周旅行」を実現されました。



この旅行によって得られた経験が現在の青江さんの価値観に大きな影響を与えているそうです。

特に旅先で出会った大道芸人の言葉が今でも青江さんを後押ししているらしく…

やるべきか迷っていることをやったらどうなるかわかるか？



失敗するに決まっているだろう！ワハハ！



失敗を前提とすることで、何事も気軽に挑戦できるようになったそうです。



そのような経験を重ねて、現在では「8割の人たちが反対しているくらいがちょうどよい」とまで思えるようになったそうです。



# 価値観を表すエピソード

## 2. 豊かであること(豊かさの追求)

<p>世界一周旅行を経て変化があったのが「豊かさ」に対する考え方です。</p>  <p>薪で湯を沸かしたり、川で体を洗う姿を見て豊かさを感じたり…</p>	<p>旅先で出会う人の優しさに豊かさを感じたそうです。</p>  <p>そのような感覚は青江さんが追求している「パーマカルチャー」に通じるものです。</p>	<p><b>「パーマカルチャー」?</b></p> <p>パーマカルチャーとは、パーマネント(永続性)と農業(アグリカルチャー)、そして文化(カルチャー)を組み合わせた言葉で、永続可能な農業をもとに永続可能な文化、即ち、人と自然が共に豊かになるような関係を築いていくためのデザイン手法です。(※)</p>	 <p>以前は岡山市では感じることはできなかったパーマカルチャーが日常の中で感じられるようなまちづくりを目指しています。</p>
---	---	--	---

(※)パーマカルチャーセンタージャパン ウェブサイトより <http://pccj.jp/>



# 価値観を表すエピソード

## 3. 人をつなぐ

様々な人が参加する会議やイベントを主催することの多い青江さんですが、

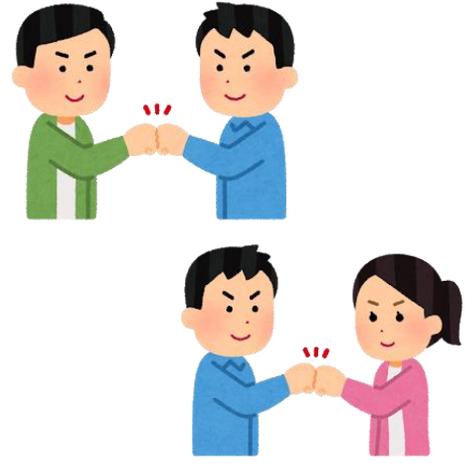


特に場づくりが好きなわけではなく、本当は現場で活動しているほうが性に合っているそうです。

それでも人をつなぐこと、ともにまちをつくることをやめないのは合意形成の重要性を実感しているから、



みんなの意見を聞き、みんなが関わらないと物事が進まないという経験をしているからです。



「常識は人の数だけある」という信念のもと、青江さんは今日も人をつなぎ続けます。

ちなみに青江さんは学生時代はずっと野球部だったそうです。



チームプレーの原点は部活動にあるのかもしれませんが。



# 今力を入れていること

- パークマネジメントの普及と実践  
「操車場跡地にできる新公園を活用する市民の会」の代表としてひきつづき、パークマネジメントを普及・実践していくこと。
  
- 会社経営とまちづくりの両立  
「まちをよくする」だけに力を注いでいると会社の経営が成り立たない。会社にもまちにもよい影響を与えていると胸を張って言えるようになりたい。



# 次世代のリーダーへ提供できるもの

「若者の挑戦を後押しする存在」

現代の社会はリスクヘッジや効率性が優先され過ぎている。  
多少のリスクはあっても挑戦したいという若者がいれば  
背中を押してあげられる大人になりたい。



# 次世代のリーダーへのメッセージ

## 「経験を語る」

スペイン語では「知っている」を表す言葉が複数ある。  
知識として知っていることと経験として知っていることは異なる。  
様々な情報が手軽に入手できる時代だからこそ  
できるだけ経験して知っていることを増やしてほしい。  
そしてさらに多くの人に語り、伝えていってほしい。